

J. Jpn. Bot. 87: 140–142 (2012)

アイラトビカズラ (マメ科) の日本における新分布 (井手真帆^a, 今江正知^b, 池田 博^{c,*})

^a 熊本市立熊本博物館

^b 861- 熊本県熊本市

^c 東京大学総合研究博物館

Maho IDE^a, Seichi IMAE^b and Hiroshi IKEDA^{c,*}: A New Locality of *Mucuna sempervirens* Hemsl. (*Fabaceae*) in Japan

^a Kumamoto City Museum, 3-2, Furu-kyomachi, Kumamoto-shi, Kumamoto, 860-0007 JAPAN

Kumamoto-shi, Kumamoto, 861- JAPAN

^c The University Museum, the University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033 JAPAN

*Corresponding author: h_ikeda@um.u-tokyo.ac.jp

Summary: *Mucuna sempervirens* Hemsl. (*Fabaceae*) was collected in Kuratake-machi, Amakusa-shi, Kumamoto Pref., Kyushu, Japan. This is the third locality of this species in Japan.

筆者の一人井手は、2010年4月に天草市役所倉岳支所の歳川喜三生氏から、見慣れないマメ科植物の花が咲いているという連絡を受け、今江とともに現地へ赴いた。現地は天草上島の倉岳の裾野にあたり、問題の植物は棚底川沿いの細い道の脇に一本だけ生育していた。根元の幹周りは48 cmで、地面から高さ30 cm付近で二股に分かれ、周辺に生育しているニッケイなどの樹木に絡みながら蔓を伸ばし、幹に直接つけた花や、地面に多数落ちた花が独特の芳香を放っていた (Fig. 1)。花と葉を採集して確認したところ、葉に小托葉がないこと、小葉の細脈が目立つこと、旗弁が暗紫色で無毛であることなどから、アイラトビカズラ (トビカズラ) *Mucuna sempervirens* Hemsl. と同定された。

アイラトビカズラは、マメ科トビカズラ属のつる性常緑木本で、日本と中国 (南部・南西部) に自生する (Tateishi and Ohashi 1981, 大橋 1989)。Nakai (1932) はこれを新種として *Mucuna japonica* Nakai と命名したが、Koidzumi (1932) は中国産の油麻藤 *M. sempervirens* にあてた。アイラトビカズラの所属がなかなか決まらなかったのは、この株にめったに果実ができないことによっていたが、植物ホルモンの投与により結実した果実の観察によって、油麻藤と違うことが確かめられ (大井 1963, 村上・浜田 1967)、現

在では通常 *M. sempervirens* の学名が用いられる。日本では従来、熊本県山鹿市菊鹿町相良に1本だけが自生するとされ (北村・村田 1971, 大橋 1989)、国指定の天然記念物に指定されていた (熊本記念植物採集会 1969)。ところが、2002年に長崎県佐世保市九十九島の無人島で発見され (中西・川内野 2002)、日本で2番目の産地が報告された。したがって今回報告する産地は、日本における3番目の産地と考えられる。

発見されたアイラトビカズラは、生育地の付近にゲートボール場があり、人の出入りがある場所に生育していたにもかかわらず、これまで気がつかれていなかった。その理由として、これまでは花をつけていなかったためではないかと思われる。菊鹿町のアイラトビカズラも、なかなか花をつけないことが知られていた (中井 1932, 1936, 小泉 1932)。

今回発見されたアイラトビカズラが自生のものか、誰かが持ってきて植えたものなのかは分からない。もし自生のものだとすると、どこから種子が運ばれてきたのかなど、生物地理学的に興味深いと考えられる。

証拠標本は熊本市立熊本博物館 (KCM) および東京大学植物標本室 (TI) に収めた。

Voucher Specimens:

Japan. Kyushu: Kumamoto Pref., Amakusa-shi, Kuratake-machi, Tanasoko, 29 April 2010, M. Ide KCM09-008734 (KCM, TI).

アイラトビカズラの情報を提供いただいた天草市役所倉岳支所の歳川喜三生氏に感謝いたします。

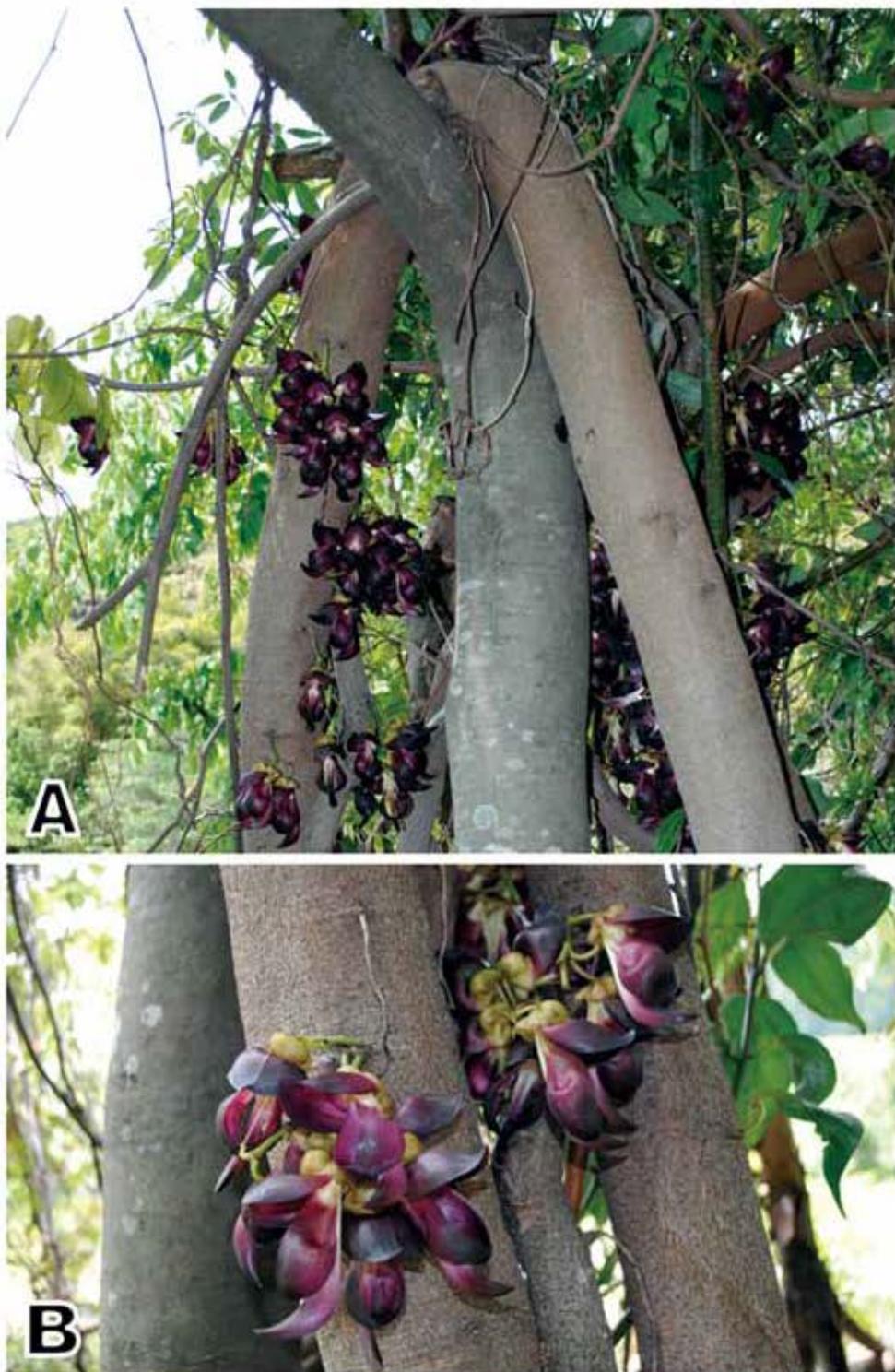


Fig. 1. *Mucuna sempervirens* Hemsl. in Amakusa, Kumamoto Pref., Kyushu, Japan. A. Habit. B. Close up of flowers.

す。また、大橋広好博士にはアイラトビカズラについてご教授いただきました。お礼申し上げます。

参考文献

- 北村四郎, 村田 源 1971. トビカズラ属. 原色日本植物図鑑 木本編 I: 349-351. 保育社, 大阪.
- Koidzumi G. 1932. Contributiones ad cognitionem Florae Asiae Orientalis. Acta Phytotax. Geobot. **1**: 164-176.
- 小泉源一 1932. 油麻藤は九州に産す. 植物分類, 地理 **1**: 180-182.
- 熊本記念植物採集会(編) 1969. 熊本県植物誌, 436 pp., 55 pls. + 2 maps. 長崎書店, 熊本.
- 村上誠愨, 浜田善利 1967. アイラトビカズラの結実と種子の発芽について. 植物研究雑誌 **42**: 327-334.
- Nakai T. 1932. Notulae ad plants Japoniae & Koreae XLI. Bot. Mag. (Tokyo) **46**: 37-67.
- 中井猛之進 1932. 日鮮植物管見第四十一ノ解. 植物学雑誌 **46**: 89-101.
- 中井猛之進 1936. あひらとびかづら (まめ科). 東亞植物圖説 **1**(2): 37-40, t. 17.
- 中西弘樹, 川内野善治 2002. トビカズラ (マメ科) の新産地とその花の形態. 植物地理・分類研究 **50**: 69-72.
- 大橋広好 1989. マメ科. 佐竹義輔, 原 寛, 亘理俊次, 富成忠夫 (編), 日本の野生植物 木本 I: 229-256. 平凡社, 東京.
- 大井次三郎 1963. アイラトビカズラの果実. 植物研究雑誌 **38**: 127.
- Tateishi Y. and Ohashi H. 1981. Eastern Asiatic species of *Mucuna* (*Leguminosae*). Bot. Mag. (Tokyo) **94**: 91-105.